

第109回社会保障審議会 医療保険部会（平成29年11月24日）  
各委員の発言要旨（次回の診療報酬改定に向けた検討関係）

### 1. 改定に当たっての基本認識

（制度の安定性・持続可能性の確保と医療・介護現場の新たな働き方の推進）

- ・ 保険財政や国の財政に係る状況等に「留意するとともに」とあるが、骨太の方針2017と平仄を合わせる観点から「を踏まえつつ」として欲しい。

### 2. 改定の基本的視点と具体的方向性

#### （1）地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進

- ・ 地域包括ケアシステムの構築というテーマは、診療報酬による効率的で効果的な支援が有効であり、関係者の期待も大きく、最優先かつ継続的に取り組んで欲しい。
- ・ 診診連携が非常に大事な要素であり、チームをつかって患者をトータルで診ていくやり方を施策として推進して欲しい。
- ・ 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携をこれまで以上に進めなければならない。病院薬剤師は、チーム医療、医療安全の確保、医薬品の適正使用に貢献しており、評価して欲しい。服薬の一元・継続管理、それに基づく薬学的管理指導ができるよう、かかりつけ薬剤師・薬局の機能を評価して欲しい。
- ・ 家族も含めた介護の中で、全体の負担軽減を含めて質の高い医療提供をすることが必要であり、介護家族のQOLも含めて改善するような方向で検討して欲しい。

#### （2）新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の実現・充実

- ・ 医療機関の内部だけで物事を決めるとゆがみが出るため、第三者の評価を入れ、外部からも目を通す仕組みを構築して欲しい。

### 3. 将来を見据えた課題

- ・ 将来にわたって対応可能な医療提供体制の構築は、医療保険制度の持続可能性の確保と表裏一体であり、最大限取り組んでいく趣旨を盛り込んで欲しい。
- ・ レセプト電子請求の更なる推進と全ての医療機関における診療明細書の無料発行の推進を盛り込んで欲しい。「3. 将来を見据えた課題」だけでなく「（2）新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の実現・充実」にも明記すべき。

#### <その他>

- ・ 次回以降、基本方針の検討ペースを前倒しすべき。
- ・ 患者が本気になって生活習慣を正し、健康を回復するには、カウンセリング的な時間

が必要だと思うが、評価されなければ医療機関も時間を割くことは難しい。本質的に重要で、手間も時間もかかる医療指導については評価すべき。

- 終末期医療、人生の最終段階における医療は、超高齢社会において非常に重要な課題であり、次回改定では基本方針に織り込むと同時に、パッケージとして広い意味での高齢者に対する医療制度と診療報酬を検討して欲しい。